



こくろうよなご

第16号

2025年4月25日

発行責任者 倉下文明

編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！



「効率が進む一方で、職場には不平・不満も多く存在しており、取り上げ改善に向け動く事が拡大にも結び付いている」

「安全運転への懸念など、全てが自己責任と自助努力に委ねられている

組織拡大交流会では、はじめに倉下委員長より、「4月15日付で国労加入があった。久しぶりの加入となる。加入頂いた仲間に敬意を表したい。職場は効率化が進み、話をする機会もなくなり、働く

者、孤立をするような状況にもある。仲間の働き方や思いに寄り添い、粘り強く組織拡大の取り組みを進めよう」

その後、二つの分散会に分かれて組織拡大の課題などについて交流してきました。

次世代への継承！

去る4月19日、地方本部事務所に於いて「組織拡大交流会」を開催しました。中央本部より「岩元書記長」をお招きし、JR職場の現状や組織拡大に向けた課題などについてオルグを受けました。午後からは、分散会にてそれぞれの職場の現状なり他労組組合員との関わりなど率直に交流してきました。

者が孤立をするような状況にもある。仲間の働き方や思いに寄り添い、粘り強く組織拡大の取り組みを進めよう」

その後、二つの分散会に分かれて組織拡大の課題などについて交流してきました。

自己責任と自助努力

14年経った今も！

原発は安全ではない

後藤総合車両所労災から14年

現状が報告されています。一方、勤務公表が前月の25日では生活設定も立たない・転勤も一ヶ月ぐらいたないなど、準備も出来ないなど、出されていましたが、仕事優先がこびりつき、「働きやすくするためには、何をかえなければいけないのか？」柔軟に考えることが難しくなっていると感じました。「ダイバーシティ」の視点で、職場・生活を振り返ることも必要だと感じました。

去る3月30日、大栄町農村環境改善センターにて、ジャーナリストで作家の「青木美希」さんを講師とした「福島原発事故の教訓と課題」の講演会が開催されました。

次に、「日本はなぜ原発を止められないのか？」として、「原子力ムラ」「政治家と電力会社との関係」等、根の深い様々な結びつきがあることが言われていました。

また、石破首相が総理になる前に語った「原発は安全じゃないが、ゼロにする答えがない」としたインタビュー映像も流されていました。映像が「原発の最大限の活用」を掲げる政府方針との矛盾を感じ

ました。福島原発事故から14年が経過し、関連する報道も徐々に減少する一方で、全国で原発の再稼働が進められています。

私たちたちが暮らすこの山陰においても、昨年12月、島根原発2号機が避難計画なども曖昧なまま、12年ぶりに再稼働することになりました。

原発は一旦事故が起されば、広範な地域に甚大な被害をもたらす、復興にはとてつもない時間と費用が必要となります。原発に群がる利権の為に、生命と暮らしが奪われるなど、のほかです。改めて、「核と人類は共存出来ない」ことを痛感した講演会となりました。

(吾郷)

原発事故を風化せない！！

へんのす時大線なをし

現状が報告されています。一方、勤務公表が前月の25日では生活設定も立たない・転勤も一ヶ月ぐらいたないなど、準備も出来ないなど、出されていましたが、仕事優先がこびりつき、「働きやすくするためには、何をかえなければいけないのか？」柔軟に考えることが難しくなっていると感じました。「ダイバーシティ」の視点で、職場・生活を振り返ることも必要だと感じました。

去る4月7日、後藤総合車両所にて関連会社で働く社員がクレーンに挟まれ死亡された労災死亡事故から14年目の日を迎えました。倉下委員長が総合車両所内に設けてある事故展示室を訪れ、献花を行いました。



へんのす時大線なをし
の哀を同重をさ意にし
の意ると、災返決に
に、労りい新まし